

科目名称	日本美術史 ①②			授業コード	10101611
担当教員	山崎 均				
単位数	2.0	授業形態	講義	科目分類	芸術・デザイン／芸術・文化
年次	1	開講年度	2019	開講学期	前期
関連資格					
履修制限等					
到達目標(目的含む)	各時代を象徴する日本美術と関連する歴史事象を理解し、美術作品を多面的に鑑賞する能力を身につける。				
授業の概要	各時代の重要な美術作品、時代背景、日本の伝統工芸、アジアの美術・工芸を含む関連領域の文化、社会的な出来事等に関する基本的知識を理解する。海外の美術、科学技術、美術学校や美術館などの美術をめぐる諸制度、トピックを視野に収め、美術を深く鑑賞する能力を習得する。日本の美術の流れをその社会と文化的な背景を考慮に入れて概観する。縄文・弥生時代から明治、大正、昭和、平成と続く近現代の日本美術までを視野に収める。関連する日本の様々な伝統美術、西洋及びアジアの美術・工芸、芸術文化との相互交流、海外の多彩な文化の刺激を摂取しつつ、独自の美術表現を生み出してきた日本美術の特質を概説する。今に伝わる日本美術の多面的な姿、その伝統と革新の力に満ちた美術を鑑賞し、美術を創造する美術家、それを伝える人々や美術館の営み、さらに新たな時代の美術を生み出す感性について論じる。日本美術を扱う美術館学芸員としての実務経験をもとに、日本美術の収集、保存、展示、研究調査等の視点を特に大切し、作品の取扱い、素材、作品の鑑賞環境と日本美術史との関係についても詳細に講義する。				
授業計画	1: 全体オリエンテーションー縄文・弥生時代、日本美術の特質、伝統と革新、アジアの美術・工芸の流れ 2: 古墳時代及び飛鳥・白鳳時代の美術 3: 奈良時代の美術(天平時代の美術) 4: 平安時代の美術(貞観・藤原・院政時代の美術) 5: 鎌倉時代の美術 6: 南北朝・室町時代の美術 7: 桃山時代の美術 8: 江戸時代の美術1(元禄時代の美術) 9: 江戸時代の美術2(享保・化政時代の美術) 10: 幕末から明治維新へ(開国と文明開化と美術) 11: 明治時代の美術(日本の伝統工芸、アジアの美術・工芸、美術史の再編と近代美術) 12: 大正から昭和へ 13: 昭和時代の美術1(戦前・戦時期の美術) 14: 昭和時代の美術2(戦後・高度成長の盛衰と美術) 15: 昭和から平成へ(80年代とポストモダンの諸相)、全体のまとめ				
授業時間外学習	各種の日本美術展と文化財の環境に実際親しむ習慣を身につけること。				
評価方法	1回のレポート。レポートを提出しない場合、また出席が3分の2に満たない場合はE評価となる。				
課題・試験に対するフィードバックの方法	次回授業時に優れた内容の課題や質問に解説を行う。				
使用テキスト	レジュメを配布。				
参考テキスト・URL					
各自準備物					
実習費					
その他	私語厳禁。レポート執筆に際しては、引用文献の確認を厳格に行い、「」等の引用符を正しく用いて引用すること。引用に際して原典の書誌情報、該当する引用元の原典引用範囲のページを明記すること。				